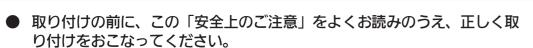
取付注意



● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々 への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害 や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると 生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。 いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告:人が死亡または重傷を負う可能性が想定される

<u>↑</u>注 意:人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発 生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合 は分解禁止)が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げる ものです。図の中に具体的な指示内容(左図の 場合は電源プラグをコンセントから抜いてくだ さい)が描かれています。

少一 50cm 以上



取付注意

アースを

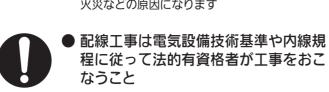
取り付ける

レンジフード 取付説明書

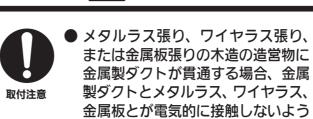
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解 したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがを するおそれがあります 分解・修理・



● 排気工事をされる場合は建築基準法 (同施行令) および消防法などの関連 法規に従って法的有資格者が工事をお こなうこと 火災などの原因になります



誤った配線工事は感電や火災の原因になります ● アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください



取り付けること

があります

しないこと

漏電した場合、発火したり感電するおそれ

● 本体とダクトは、可燃物との間を

して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

10cm 以上離すか、不燃材料を使用

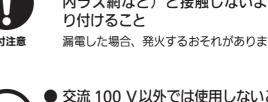
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてくだ

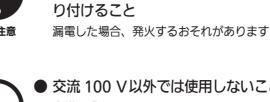
● レンジフードの壁への埋め込みは

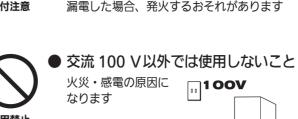
漏電した場合、発火するおそれがあります

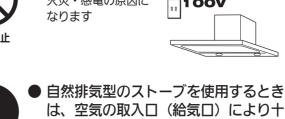
⚠ 警告

● レンジフードは、薄板の金属部(壁 内ラス網など)と接触しないよう取 り付けること

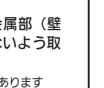








分給気される配慮をすること 排気ガスが室内に 逆流し、一酸化炭素 中毒を起こすおそれ があります



● 取り扱いの際は必ず厚手の 手袋をすること 鋼板の切り□や角で けがをするおそれが 手袋をする あります

● ファンや部品の取り付けは

落下によりけがをするおそれが

● レンジフードの取り付けは

んで確実におこなうこと

落下によりけが

をするおそれが

あります

23.5 kg

27.0 kg

十分強度のあるところを選

確実におこなうこと

あります

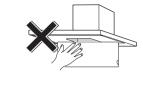


注意

● 浴室など湿気の多い場所では 絶対に使わないこと(浴室用 換気扇をお使いください。) 感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40℃以上になる ところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります

● 運転中は指や物を絶対に入れ けがをするおそれがあります 接触禁止



取り付け上のお願い

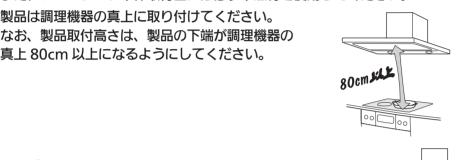
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこ
- なう必要があります。 ・大工工事【設置のための下地工事等】
- ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】 ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・ 設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について

ください。

- ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定 品の不燃材料で被覆してください。 ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従って
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。 調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気
- 効率が低下します。 ● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
- いでください。 ● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいち じるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しな

- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。 本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏 ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実 に補強部に届くことを確認してください。
- また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。 ● 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
- なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の 真上80cm以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないで ください。 また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
- 湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。 ● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。 火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気の ために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。 ● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を 巻くなどの対応をしてください。

座付ねじ φ 5.1 × 45 (6 本) 3)mmm> 本体の取り付けに使います。 ブッシュ(2個)

本体の取り付けに使います。

ソフトテープ(1 本) 排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。



排気口(1個) 本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。



取付ねじは本体に取り付いています。



● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修 理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあ ります



● レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など) と接触しないよう取り付けること 漏電した場合、発火するおそれがあります



● 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上 離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと 火災などの原因になります 詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止

取付注意

埋込禁止

● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと 漏電した場合、発火するおそれがあります

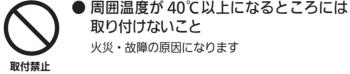


● 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資 格者が工事をおこなうこと 火災などの原因になります

注意

● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋

をすること 鋼板の切り□や角でけがをするおそれが あります 手袋をする



取付注意

取り付け前の調査と準備

● レンジフードの取り付けは十分強度のあるとこ ろを選んで確実におこなうこと 落下によりけがをするおそれがあります

製品を支える強さが 必要です。

取付面の強度確認

■ 板張りの場合 ● 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、

標準タイプ

大風量タイプ

補強板にレンジフードを取り付けてください。 ● 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。 ■ コンクリート、タイル壁の場合

● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラ グ等を使用し固定してください。 ■ 土壁の場合

ださい。

● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでく

→ 排気□

本体引掛け位置

使用禁止

取り付ける

▲ 排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

→ 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面 から製品の下端まで80cm以上です。 80cm File ※火災予防条例では、グリスフィルター

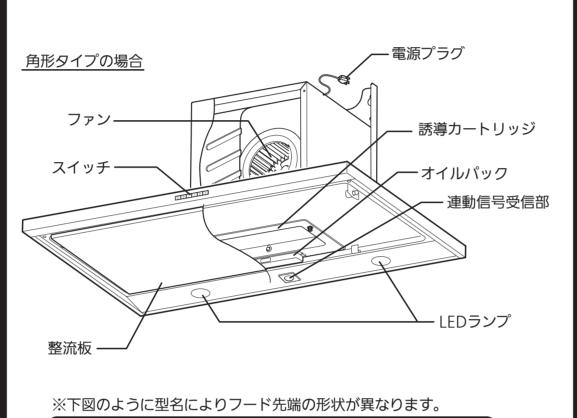
の下端が調理機器の真上 80cm 以上

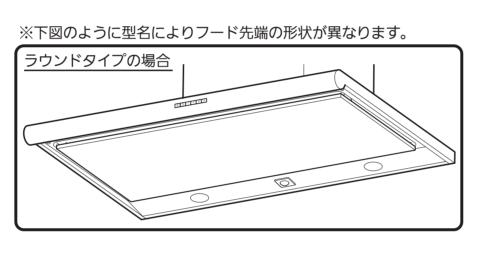
必要となっています。

電源コンセント・ブレーカー ■ 電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。

(交流・単相 100V) コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使 用ください。

各部のなまえ





標準取付例 アース接続端子 だるま穴 (アース線は取付作業者側手配 連動線詳細 吊り金具 電動シャッター取付用コネクター □■■ (HDS-150) <u>100V出力用コネクター</u> (SRS-100V) 連動線 このスライド部は 〈ダクトカバーの内側に入る 機外長1m 350 (ダクトカバー吊り金具取付穴) 65,75 250 0 9 350 別売ダクトカバー <u>2-φ8穴</u> (本体取付穴) 2-だるま穴 (本体取付穴) 220 大風量タイプ ※表記以外の寸法は標準タイプと同様です。 下図の様に型名によりフード先端の 別売ダクトカバー使用時寸法 意匠が異なります。 型名 FEDD-515*AJ | 565~715 FEDD-665*AJ 715~915 FEDD-865*AJ 915~1115 注) 1.排気方向は上方・後方排気です。 (後方排気の場合は別売のL形ダクトを使用。 別売ダクトカバー使用時寸法 ただしH=690以下の場合は上方排気のみと 型名 H寸法 なります。) 2.ダクトカバーFEDD-515*AJ、「*」には FEDD-515*AJ | 550~700 色記号が入ります。 FEDD-665*AJ 700~900 FEDD-865*AJ | 900~1100 注) 1.排気方向は上方・後方排気です。(後方排気の場合は別売のL形ダクトを使用) 2.ダクトカバーは型名によって寸法が異なります。(ダクトカバー寸法一覧参照) 3.ダクトカバー型名の「*」には色記号が入ります。 4.ダクトカバーFEDD-515*AJの場合、別売L形ダクトは使用できません。

取り付けかた

本製品にはフード先端形状の違いにより、角形タイプとラウンドタイプの2種類 があります。

本説明書は角形タイプで説明していますが、取付方法や操作方法は同じです。

1. 付属品の確認

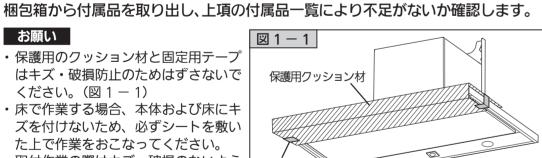
/ 注意



手袋をする

お願い

● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り□や角でけがをするおそれがあります



ください。(図1-1) 床で作業する場合、本体および床にキ ズを付けないため、必ずシートを敷い た上で作業をおこなってください。 ・取付作業の際はキズ・破損のないよう | 固定テープ に十分注意してください。

2. 排気方向の決定

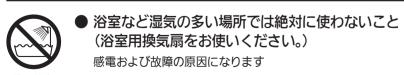
警告



● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に 金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、 金属板とが電気的に接触しないように取り付けること 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります ● 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令) および消防法など

の関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと 火災などの原因になります 取付注意 ● 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を

詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください **/ 注意**



取付注意

(浴室用換気扇をお使いください。) 感電および故障の原因になります

使用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

使用禁止 ● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと

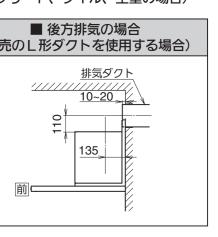
ください。

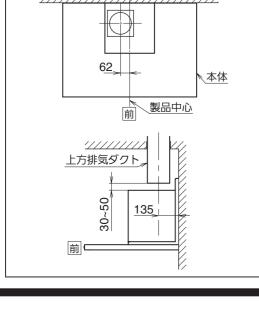
火災・故障の原因になります

製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼して

また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図6-1参照) **1** φ 150 のステンレスダクト、またはスパ ▲ イラルダクトを図のようにレンジフード の上部に突き出すようにセットして、周

囲を仕上げます。 (コンクリート、タイル、土壁の場合) ■ 後方排気の場合 (別売のL形ダクトを使用する場合)





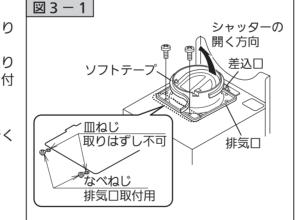
■上方排気の場合

3. 排気用部品の準備

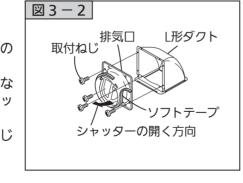
※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意します。

排気口に付属品のソフトテープを貼り 付けます。 本体に付いているなべねじ2本を取り はずした後、付属品の排気口を取り付 けます。 取付方向は右図を参照してください。 ※ 近傍の皿ねじは取りはずさないでく ださい。

■ 上方排気の場合(図3-1)

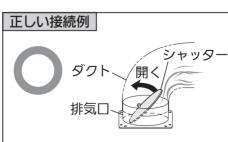


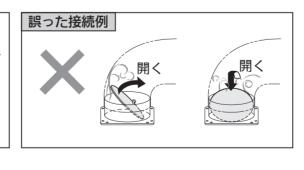
■ 後方排気の場合(図3-2) (別売のL形ダクトを使用する場合) 排気口に付属品のソフトテープを貼り、別売の L形ダクトに取り付けます。 取付方向は、シャッターの開閉方向が下方にな り、レンジフードを運転していないときはシャッ ターが閉じるように取り付けます。 排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ 4 本でL形ダクトに取り付けます。



お願い

L形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、 シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。 下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。



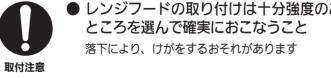


4. 本体の取り付け

<u></u> 注意

● レンジフードの取り付けは十分強度のある ところを選んで確実におこなうこと

込んでしまうと本体が取り付かないおそれがあります。



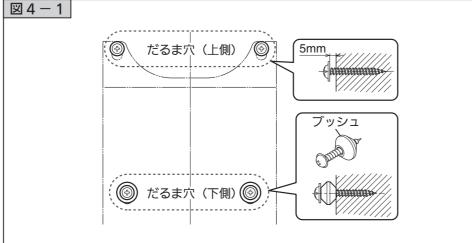
込んでしっかりと締め付けます。

ます。(図4-1) 1) 上側のだるま穴位置(2ヶ所)に座付ねじ(φ5.1×45)2 本をねじ込み、壁面 との隙間 5mm まで締め付けます。

2) 座付ねじ (φ 5.1 × 45) 2 本にブッシュを取り付け、下側のだるま穴位置にねじ

※ブッシュが壁に食い込まない程度に締め付けてください。ブッシュが壁に食い

▲ 本書裏面のテンプレートを参照して、付属品のだるま穴用座付ねじ4本をねじ込み

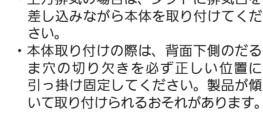


↑ 本体を引っ掛け固定します。(図 4 − 2)

締め付けます。 お願い ・上方排気の場合は、ダクトに排気口を

取り付けた座付ねじ4本に本体のだるま

穴を引っ掛けた後、上側2本をしっかり



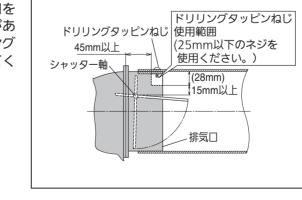
かかずがある。
かられば2本でさらに固定します。 図4-3 3 (図4−3) 上側だるま穴の下にある2ヶ所のゆ8穴に 座付ねじ (φ 5.1 × 45) 2 本をしっかりと 締め付けて固定します。

図 5 一 1

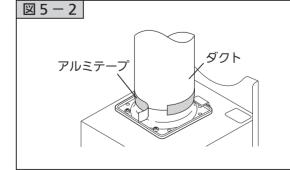
5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を 固定する場合は、シャッターにねじがあ たらないように図を参照してドリリング タッピンねじ使用範囲以内に固定してく ださい。(図5-1)



■ 上方排気の場合(図5-2) 風漏れ防止のテーピング(アルミ テープ)をおこないます。

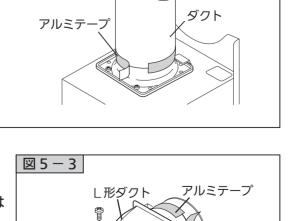


(別売のL形ダクトを使用する場合)

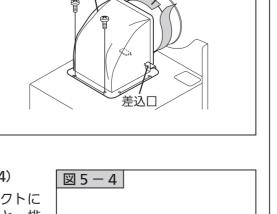
■ 後方排気の場合(図5-3)

ずした後、L形ダクトを本体上部の差込 □に差し込みながら、排気□をダクトに 挿入し、取付ねじ2本で取り付けます。 ↑ 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに レンジフードの排気口を接続しようとすると、排 気□と排気□の設置面(フード天面等)が変形し、

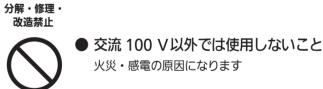


▲ をおこないます。



6. 電気配線

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



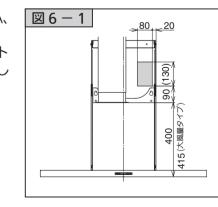
● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が 工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります 取付注意

● アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください

¶ アース(D種接地工事)を取ります。 ※アース線は取り付け作業側にて手配します。 ∮ 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い ・電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、 図 6 - 1 125V) およびブレーカーを設けてください。 ・コンセントは電源コードの長さを考慮し、ダクト カバーのサイズに合わせて右図の範囲内に設置し

てください。(図6-1)

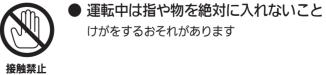


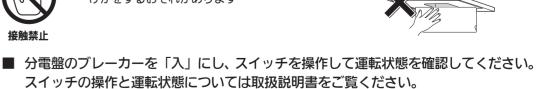
100V

7. 試運転

注意

■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

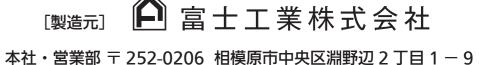




■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。 ■ 屋外の排気出口から排気され、異常がないことを確認してください。 ■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となり ますので十分確認してください。

8. お客様への説明

■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。



TEL 042(768)3754(営業部)

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。



風漏れが発生してしまう場合があります。 風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強 運転)をおこなってください。 漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミ テープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなっ てください。

■ 排気口設置面の漏風確認のお願い(図5-4) ├─ ダクト _ 排気□

アルミテープ等

お願い

この型紙は湿気の影響で2~3mm 誤差が生ずることがあります。

寸法をお確かめの上ご使用ください。

